

# 7

## 男の子の外性器、どんなところに注意したら良いの？（泌尿器科）

次のようなときは、泌尿器科で診察を受けてください。

精巣（睪丸）の大きさ：赤ちゃんから思春期前までの精巣の標準的な大きさ（容量）は2ml、ちょうどお菓子の「すずめのたまご」の大きさです。もし、これより小さければ（1ml以下）、精巣の発育が心配です。

陰茎の長さ：「陰茎（オチンチン）の大きさを気にするな」といっても、この時期だけは気にしなければならない標準的な長さがあります。しかし、正確に測ることは難しいです。もし立ちションに不自由する場合は小さいかもしれません。

尿道口の位置：尿の出口の尿道口は、通常亀頭の先端に開口しています。陰茎下面や会陰部に開口している状態は尿道下裂と呼ばれ手術が必要です。

包茎：この時期は包茎（皮かぶり）が当たり前、無理して包皮を下げる必要はありません。排尿のとき、太い線で尿が出ていれば心配ご無用です。ただ、尿が細い線を描いて出るとか、排尿時包皮が膨らんでいる場合は、包皮の出口が狭くなっているかもしれません。

陰嚢腫大：いんのうスヤスヤ眠っているときはしわしわなのに、オギャーッと泣くと陰嚢（袋）が風船のように膨らむときは、水が溜まった陰嚢水腫かもしれません。1歳を過ぎてても続いていたら手術が必要です。また、陰嚢の片側が大きくなってきたら、精巣腫瘍（がん）の心配もでてきます。

精巣（睪丸）の位置：陰嚢（袋）の底の位置にあれば OK です。ただ、この時期は太ももの内側を触ると精巣が足の付け根へキュッと引き上がる精巣挙筋反射がはっきりと見られるので、位置の判断が難しいかもしれません。そんな時は、お風呂上がりに確認してください。体が温まり、陰嚢がだらりと伸びて、その中に精巣を触ることができたらひと安心。陰嚢底まで下がっていなければ停留精巣かもしれません。停留精巣は1歳前後に手術をします。

包皮の中に白いものができている：包皮から透けて見える白い塊に気付いて、心配する保護者がいます。これは、尿の成分や分泌物、老廃物がチーズ様に固まったもので、ちこう恥垢と呼ばれています。包皮の内側と亀頭が癒着していると、包皮を下げて洗うことができないので溜まってしまいます。やがて癒着がはがれると、洗い流すことができるようになりますので、あせる必要はありません。ただ、赤く腫れているときは炎症を起こしています。

尿道口に水疱：外尿道口（尿の出口）に接して、あるいは、股間の線上に液体が溜まった袋状の腫れ物ができることがあります。これは、ぼうがいしょうどうこうのうほう傍外尿道口嚢胞、いんけいほうせんろうほう陰茎縫線嚢胞などと呼ばれる良性の嚢胞です。経過観察でもかまいませんが、“尿が横に飛ぶ”とか、“あると気になる”という場合は、嚢胞を手術で取り除きます。